
ある晴れた日に、空の中で少年が見たセカイ

獅施額羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある晴れた日に、空の中で少年が見たセカイ

【Nコード】

N5373I

【作者名】

獅施額羅

【あらすじ】

ある晴れた日、少年はスカイダイビングをするのだが……………。

地上数キロメートル。浮遊する鉄の塊から一人の少年が飛び降りた。

少年は大気の厚みを全身で感じながら、小さく見える物が徐々に大きく見えてくる変化を楽しんでいる。

飛び降りてからどれくらいの間時間が経っただろう。彼はパラシュートを開くために紐を引っ張った。

しかし、それは開かない。

何度も試すがパラシュートは微塵も変化を見せない。

こわい、怖い、恐い、コワイ！

イヤダ！ シニタクナイ！

真下に見える着陸地点。街の中にある少し開けたキレイな野原。

しかしそれはもう地獄の業火にしか見えていなくて、

遠くに見える美しい山も、もう死神にしか見えなくて、

少年はパラシュートの紐から手を離した。

僕は不幸だ、不幸だ、不幸だ……

不幸か？

本当に？

「人は生まれたその時から平等ではない」

かつてそんな話を誰かがしていた。生まれた家庭で人生の限界が決まるのだと、その人は言った。

貧しい家の子と豊かな家の子。

もっと言えば貧しい国の子、豊かな国の子。

一方ではご飯が食べれず餓死してしまい、一方では余る食べ物も廃棄している。

少年は思った。それでも人は平等なのだ。

全ての者は生まれたその時から確実に終焉に向かっている。

少年は山を見た。それは今でも死神の姿をしていて彼を手招いている。

不治の病の子、健康な子。違いはなんだろう。

彼は思った。違いがあるとするならば、それは死が見えているか見えていないかの差だけなのだ。

事故、急病、突発的な狂人による犯罪。あの山の死神のように、死は常に人の近くに潜んでいるのだ。

どんなに金持ちでも、どんなに貧乏でも死は平等に訪れる。

そう考えた少年には「死」が、先ほどまでの恐怖の対象が、とてもキレイなモノに思えた。

少年の眼にはもう地獄の業火も死神も映っていないくて、元の美しい光景が輝いていた。

少年は首を捻って上を見る。目に映るのは自分の通ってきたセカイ。蒼く果てのない空と、浮かぶ白く輝く雲。照り付ける暖かい日差し。

自分がこれまで通ってきた道はこんなにも暖かく、美しく、そして輝いている。

少年は次に大地を見つめる。これからの道はどうだろうか。

光る若々しい緑の野原。

ああ、このセカイはキレイだ。生きてきた道も、これからの道も。

こんな美しいセカイで迎える最期はキレイなモノでありたいと思っただ。

だから少年は唄った。全ての想いを詞に込めて。大切な人に向けて奏でる旋律を風に乗せて。

誰にも知られることが無くても良い。ただ自分がここに居た証を示したかった。

眼前に大地が広がる。時間はもう残されていなかった。

最期までキレイでありますように。

少年は涙を堪えて最高の笑顔を浮かべた。

完

(後書き)

普段とは違った書き方をしてみたのですが、いかがでしたでしょうか。

私は物書きとしては限りなく未熟者ですのでアドバイスや感想などがありましたら頂けると有難いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5373i/>

ある晴れた日に、空の中で少年が見たセカイ

2010年10月28日03時48分発行